
第 3 期 兵庫県地域創生戦略の概要

R6.12.26 兵庫県地域創生戦略会議

- 1 第 3 期 兵庫県地域創生戦略の全体像
- 2 第 2 期戦略の評価
- 3 3つの柱と8つの方向性
- 4 戦略推進プロジェクトの概要
- 5 人口の将来展望及び指標・評価

1 第3期 兵庫県地域創生戦略の全体像

基本
理念

五国の多様性を活かし、一人ひとりが望む働き方や質の高い暮らしが実現できる地域へ
～地域や人をつなぐ「縁」を生み出し、共創の取組を五国に広げる～

3つの柱 『自分らしく生きられる社会の創出』 (方向性1～3) 『五国に広がる可能性の追求』 (方向性4～6) 『暮らしの持続性の確保』 (方向性7～8)

8つの
方向性

1 多様な学びや働き方が叶う社会を創る ・教育環境の充実 ・リキグ等学び直しの環境づくり ・WLBをはじめとした多様な働き方の促進	2 居場所と役割を創る ・ひきこもり対策の推進 ・不登校対策の支援強化 ・課題を抱える若者等への支援	3 寛容性を広げる ・ユニバーサル社会づくりの推進 ・D&Iを推進する企業等の拡大 ・固定的性別役割分担意識の緩和	4 ひとの動きを生み出す ・五国の強みを活かした移住促進 ・交流人口拡大に向けた観光施策の推進 ・関係人口の拡大	5 地域の固有性を磨く ・万博後も見据えたFPの取組推進 ・兵庫の強みを活かした産業振興 ・スポーツや芸術を通じた賑わいづくり	6 経済活力を創出する ・若者の県内就職の促進 ・人手不足対策の強化 ・ブランド力の強化 ・SDGs経営の促進	7 人・自然・文化を次代につなぐ ・出会い・結婚・子育て支援 ・自然と共生する地域づくり ・景観や伝統など地域の資産の継承	8 安心して暮らし続けられる地域を創る ・生活機能の維持に向けた取組推進 ・地域運営組織の支援強化 ・防犯・見守り ・防災・減災対策
---	--	---	--	---	--	---	---

(主な取組例)

戦略推進
プロジェクト

・地域創生の実現に向けたプロジェクトを設定 ・プロジェクトの推進状況等を毎年度フォローアップし、必要に応じて取組を改善	① 若者Z世代応援プロジェクト (望む学びや働き方が叶う環境づくり)	④ 五国のナリワイ育みプロジェクト (地域の稼ぐ力と雇用力を高める取組の推進)
	② ひとりじゃないプロジェクト (社会的な孤独・孤立を防ぐ取組の強化)	⑤ ひょうご五国豊穡プロジェクト (「農」を核とした農山漁村の活性化)
	③ 外国人「第二のふるさと」プロジェクト (外国人が安心して暮らし、働ける地域づくり)	⑥ 五国のご縁(五縁)プロジェクト (地域や人をつなぎ、新たな価値を創出)

○計画期間

▶令和7年度～令和11年度
(5年間)

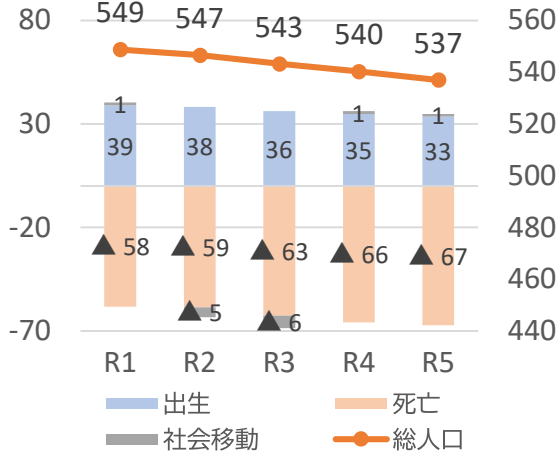
○戦略の位置付け

▶まち・ひと・しごと創生法に基づく県版総合戦略(デジタル田園都市国家構想交付金の交付要件)
▶「兵庫県地域創生条例」に基づく総合戦略(議決が必要な計画)

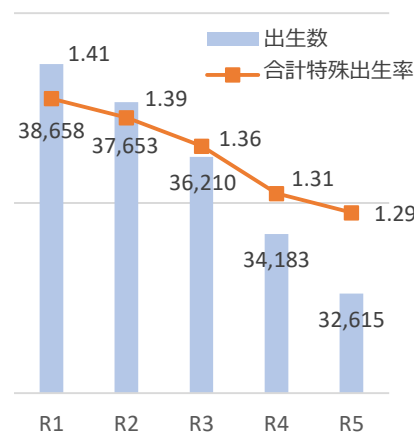
2 第2期戦略の評価

- ・新型コロナ感染拡大の影響により婚姻数や出生数の減少が加速化している。
- ・東京一極集中の再加速により20代の若者を中心に県外に流出し、日本人の転出超過が続いている。
- ・一方で、国際移動による外国人の動きも含めたトータルでは社会増となっている。
- ・日本人の動きについても、ファミリー層の転入超過が続き、良好な住環境などが兵庫の強みとなっている。
- ・コロナ禍からの経済回復や円安を背景とする輸出産業の業績拡大、インバウンド需要により、県内の経済は良好に推移している。

④ 総人口及び出生・死亡数・社会移動数の推移



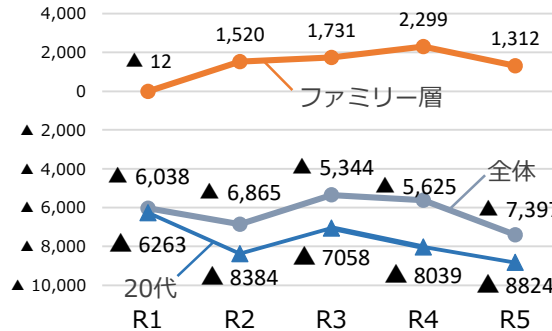
⑤ 出生数・合計特殊出生率の推移



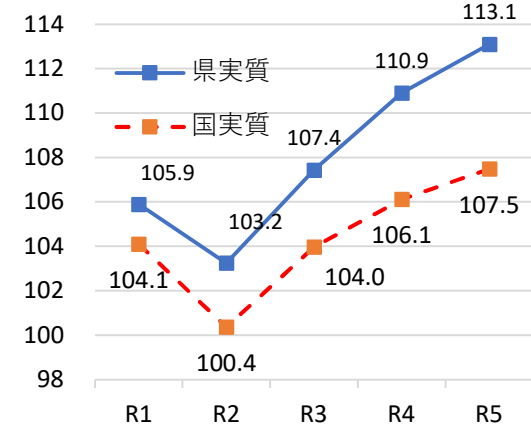
⑥ 社会移動（国際移動・外国人含む）の推移

年度	R1	R2	R3	R4	R5
人数	1,388	▲4,855	▲6,046	1,312	1,291

⑦ 転入超過の推移（ファミリー層(0~14歳、30~49歳)）



⑧ 一人あたりGDP（実質）伸び率の推移（H25=100）



【第2期戦略で掲げた戦略指標の状況】

※達成状況：「A」100%以上、「B」90~100%未満、「C」70~90%未満、「D」70%未満

戦略目標	戦略指標	R1(戦略開始時)	R5目標	R5実績
地域の 元気づくり	① 県民一人あたり県内GDPの伸び	実質 国104.1<県105.9 名目 国109.4<県110.3	国を上回る伸びの維持	実質 国107.5<県113.1 名目 国119.2<県121.9 A
	② 住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思う人の割合	77.9%	前年度(77.8%)を上回る	79.0% A
社会増対策	③ 日本人の転入超過数（R6年に日本人社会減ゼロ）	▲7,260人	▲214人	▲7,004人 D
	④ 若者定着率（R6年に93.0%）	92.0%	92.8%	91.3% B
	⑤ 外国人の増加数累計（R6年に25,000人）	1,222/年	20,000人	27,600人 A
自然増策 (子ども子育て)	⑥ 合計特殊出生率（R1=1.41を維持）	1.41	1.41	1.29 B
	⑦ 婚姻件数（27,000件）	25,109件	26,500件	19,629件 C
自然増対策 (健康長寿)	⑧ 平均寿命と健康寿命の差（男性1.40歳未満、女性3.13歳未満）	男性 1.48未満 女性 3.20未満	—	※参考R3 男性 1.39 女性 3.06 —
	⑨ 運動を継続している者（75%）	62.7%	65.8%	61.0% B

3 3つの柱と8つの方向性

1 『自分らしく生きられる社会の創出』

幸せが実感できる地域であるためには、自分らしく生きられる環境づくりが求められる。学び、働き方、ライフスタイルなどの多様な選択肢が用意されるとともに、社会的なつながりの中でだれもが居場所と役割を持てる社会をめざす。

背景（環境変化等）

- ・物質的な豊かさが広がる中で、経済的な成功や社会的な地位だけでなく、自己実現がより重視され、自分らしい生き方を追求する人が増加
- ・すべての人が同じような学びやキャリアパスを選ぶのではなく、一人ひとりの能力・志向に合わせた学びの選択や働き方の柔軟性がより求められるようになってきている
- ・働き方改革が進み、個人がライフスタイルやキャリアをより自由に選択できる環境整備が進展している
- ・都市化等に伴う地域コミュニティの絆の希薄化、高齢化・未婚化等に伴う単身世帯の増加、デジタル化に伴う対面コミュニケーションの減少等により、社会的な孤独・孤立が深刻化している

取組の方向性

① 多様な学びや働き方が叶う社会を創る

- ・多様で質の高い教育環境の提供、教育にかかる経済的負担の軽減、リスキング等の生涯にわたる学びの環境づくり等の推進
- ・ワークライフバランスの実現や柔軟な労働時間・場所の選択をはじめ、マルチワークやすき間時間での就労など、自分のライフスタイルに合わせて働ける環境の整備

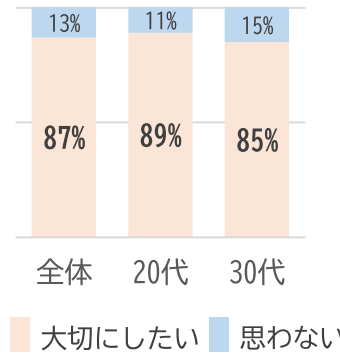
② 居場所と役割を創る

- ・社会的なつながりや居場所づくりなど、ひきこもり対策の推進
- ・校内サポートルームの充実やフリースクールとの連携など、不登校児童生徒に対する支援の強化
- ・ヤングケアラーや課題を抱える妊産婦など、支援を必要とする若者へのサポート
- ・高齢者や障害者の就労や地域活動への参加の促進
- ・単身高齢世帯等への見守り体制の強化や通いの場づくり等の促進

③ 寛容性を広げる

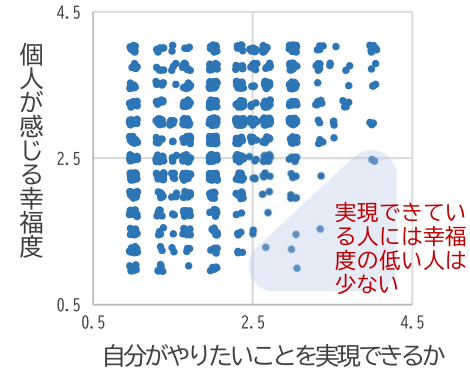
- ・全ての人々が地域社会の一員として尊重され、互いに支え合い、持てる力が発揮できるユニバーサル社会づくりの推進
- ・ダイバーシティ&インクルージョンを推進する企業等の拡大
- ・若年女性の地域定着に向けた固定的な性別役割分担意識等の見直し

01 世間体を気にせず自分らしい生き方を大切にしたいか



兵庫県：若者の暮らしに関する意識調査(R6)

02 自分のやりたいことを実現できる環境と個人が感じる幸福度との関係



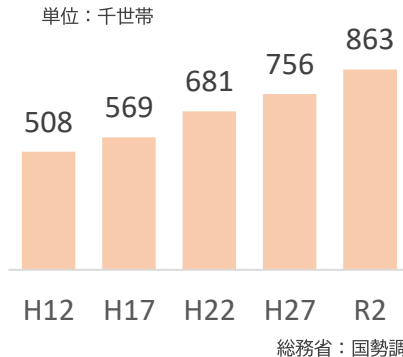
兵庫県：若者の暮らしに関する意識調査(R6)

03 社会人に求められる基礎力

前に踏み出す力	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性 ・実行力 ・働きかけ力
考え抜く力	<ul style="list-style-type: none"> ・課題発見力 ・計画力 ・想像力
チームで働く力	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟性 ・傾聴力 ・発信力 ・ストレスコントロール力

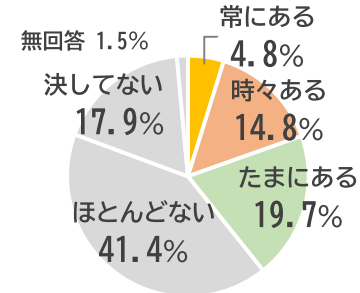
経産省有識者会議の提言を踏まえ計画課作成

04 県内単身世帯の状況



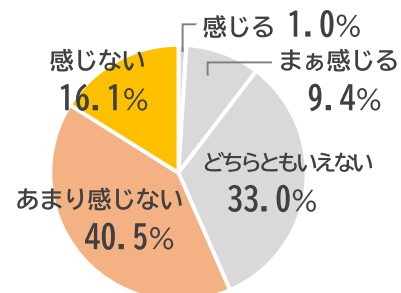
総務省：国勢調査

05 孤独であると感じることはあるか？



内閣府：人々のつながりに関する基礎調査(R5)

06 孤立しがちな人を生まないように気にかけてあげたい社会とを感じるか？



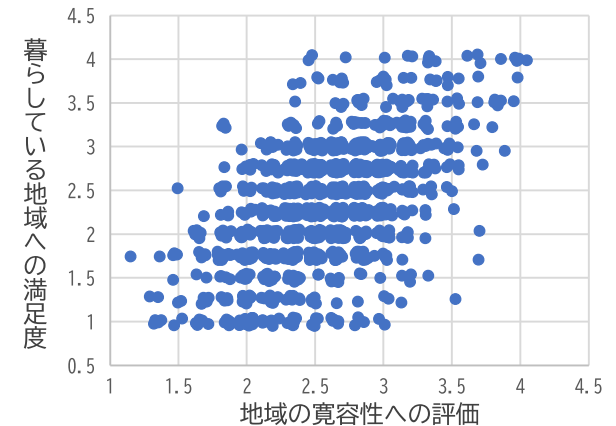
兵庫のゆたかさ指標[R6]

07 寛容性への評価と地域満足度

若者へのアンケート調査の結果、寛容性への評価と自分が暮らしている地域に対する満足度には、一定の相関関係あり

寛容性を高め、広げることは、若者の地域への定着・貢献活動につながる

兵庫県：若者の暮らしに関する意識調査(R6)



2 『五国に拡がる可能性の追求』

兵庫は日本の縮図とも称される多様な地域性を持ち、生活や伝統、歴史文化、自然景観、産業基盤など地域資源の宝庫である。地域の活力創出のためにはこのポテンシャルを最大限に活かすことが必要であり、各地の個性・強みを磨くとともに、それらを繋ぎ、掛け合わせ、活力創出の相乗効果を生み出していく。

背景（環境変化等）

- 地域の個性や強みを活かす取組は、地域間競争の中で差別化を図る上でも、また地域の一体感・帰属意識を高める上でも一層重要に
- “インバウンド”を含めた観光客は、その土地ならではの食や文化に触れる機会、地元の人々との交流や追加的な体験など、独自性を求める傾向が強まっている
- これまでの地域創生の取組を通じて、観光、特産品、文化など、地域の個性・強みを生かした成功事例が県内各地で生まれている
- 移住者や関係人口が、外部の視点も取り入れながら地域に新たな活力を生み出している事例も増えている

取組の方向性

④ ひとの動きを生み出す

- 多様な自然環境、豊かな食文化、優れた教育・住環境、都市と農山村の近接性など、五国の強みを生かした移住促進策の強化
- 2025年大阪・関西万博、WMG2027関西、神戸空港の国際化等を好機として、交流人口の拡大に向けた観光施策の一層の推進
- 大学生の地域活動への参画や、企業・団体による地域と連携した取組など、地域に継続的に関わりをもつ関係人口の拡大

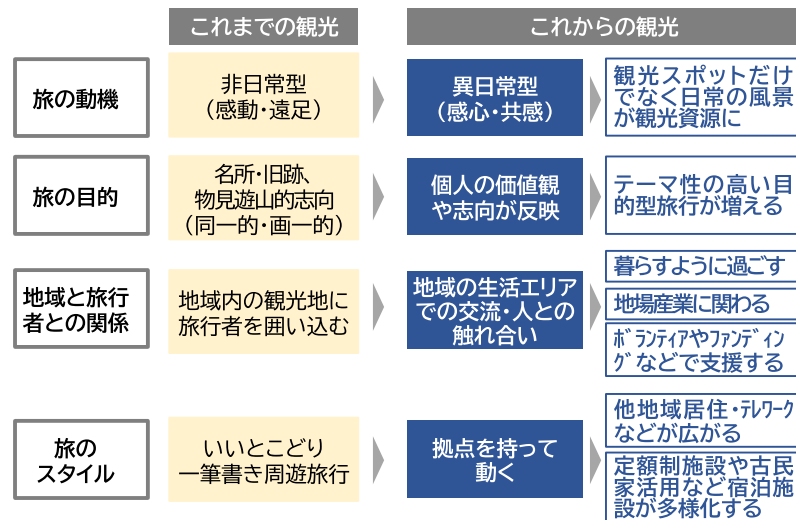
⑤ 地域の固有性を磨く

- 県内各地への誘客を通じて、地域活性化や“アップライト”の醸成を図るひょうごフィールドパビリオンについて、万博後も見据えた取組を推進
- 水素等の新産業、有機農業等の環境創造型農業など、産業分野での兵庫の強みを活かした取組の推進
- プロ・アマを通じたスポーツの振興や、芸術文化を生かしたまちの賑わい創出等の推進

⑥ 経済活力を創出する

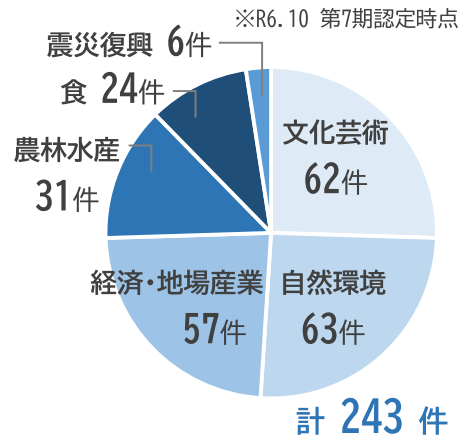
- 多くの若者が就職時に県外転出している状況を踏まえ、若者が志向する雇用の場の確保や県内企業とのマッチングの強化
- 労働環境の改善、DX化やロボットの導入、外国人を含む多様な人材の活用など、深刻化する人手不足対策の強化
- 商品やサービスの“ブランド”力強化など高付加価値化を推進するとともに、競争力や持続可能性の向上につながる企業のSDGs経営を促進

01 観光志向の変化



JTB総合研究所資料をもとに県計画課作成

02 ひょうごフィールドパビリオンを構成する「SDGs体験型認定プログラム」の分野別認定件数



03 各地の地域活性化の取組事例



◀ 演劇のまちづくり
(豊岡市)
演劇を通じた豊かな暮らしを教育等の他分野に広げ、若者やクリエイターを惹きつけるまちづくりを实践



◀ カワジエ「おっ玉葱」
(南あわじ市)
巨大なタマネギのオブジェを観光施設に設置したところ、景観も相まってSNS等で話題となり、多くの観光客を誘引

04 県内への移住者による地域活性化の取組事例

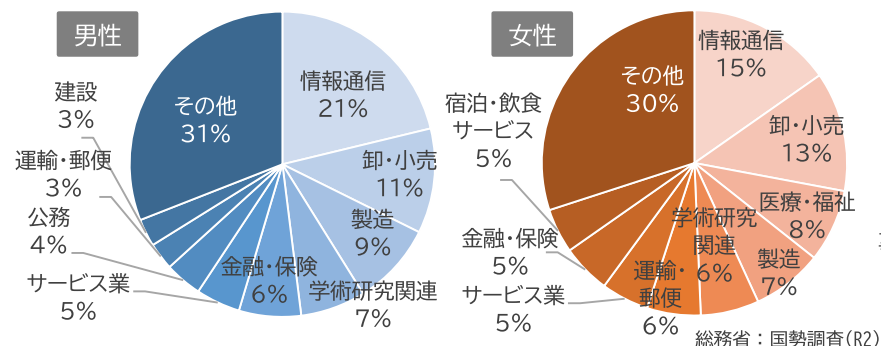


丹波
安達 鷹矢さん [大阪→丹波篠山市]
古民家や廃校を再生した滞在型施設の運営や、「創作的職人宿場町」をコンセプトに職人等の移住をコーディネートすることで、地域全体の価値を向上

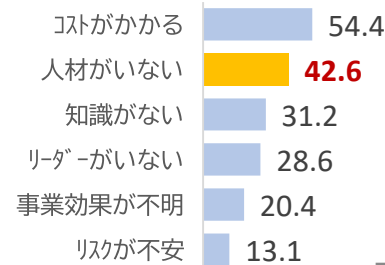
但馬
青木 幸さん [東京→養父市]
世界を旅した経験から有機農業を営み、地域農業の担い手となりつつ、子ども体験活動の運営や、移住相談のサポート等、多岐にわたり地域で活動

淡路
富田 祐介さん [東京→洲本市]
ワーケーション拠点の開設や淡路島の資源を活用した事業創業の立案、地域の人材育成などに取り組みつつ、島の移住者の中心的存在として活躍

05 兵庫から東京に転出した若者の就業先業種



06 DX推進に取り組む上での障害(県)



3 『暮らしの持続性の確保』

少子化対策や若者の県内定着など、人口減少の抑制に最大限の力を注ぐ。あわせて、生活機能の維持をはじめ、防災・防犯対策、自然環境や文化の保全など、人口が減っても安全安心に、質の高い暮らしができる環境づくりを加速する。

背景（環境変化等）

- ・ 経済状況や価値観の変化に加え、コロナ禍の影響等もあり、出生数の減少は想定を上回るペースで進行している。都市部と多自然地域の間での人口偏在も進んでいる
- ・ 県内の小規模集落数は、2015年から2021年で倍増し、都市部にも拡大
- ・ 人口減少に伴う交通インフラや医療・教育環境などの縮小が暮らしの質に影響を及ぼしている。減少の激しい多自然地域では影響が大きい
- ・ 人口減少は、労働力不足を深刻化させるとともに、地域コミュニティ機能の低下を招くなど、地域の活力維持にも影響している

取組の方向性

⑦ 人・自然・文化を次代につなぐ

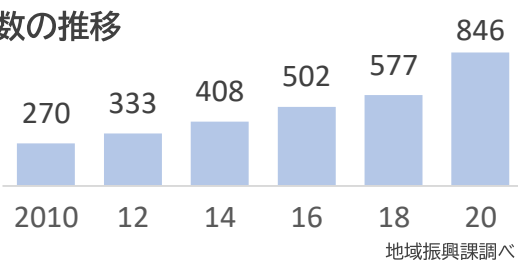
- ・ 出会い支援や出産・子育て環境の充実など、結婚・出産・子育ての希望が叶う環境づくりの強化
- ・ 地球温暖化対策や生物多様性の保全、資源循環の推進など、人と自然が共生する恵み豊かな地域を次代に継承する取組の推進
- ・ ふるさとの景観、伝統的な食文化や職人技術、行事・祭りなど、地域ならではの資産を次代につなぐ取組を推進

⑧ 安心して暮らし続けられる地域を創る

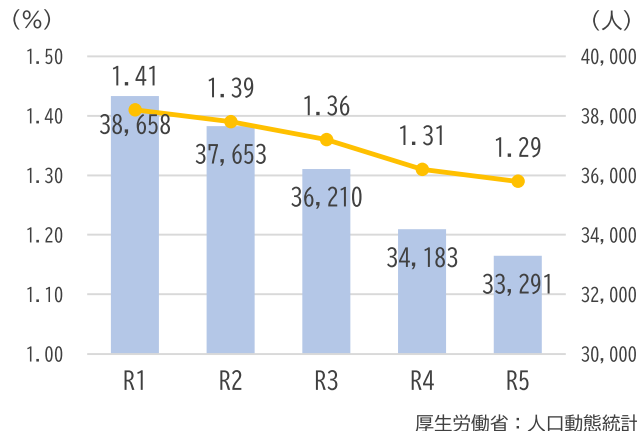
- ・ 交通インフラ、医療、教育環境、商業施設など、デジタル技術の活用等も図りながら生活機能の維持に向けた取組を推進
- ・ 高齢者の健康づくりへの支援強化や、介護等が必要となっても住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整備
- ・ 地域課題の解決に向け、住民が主体の地域づくり団体に対し、人材育成や外部人材の派遣等を通じた立ち上げや基盤強化を支援
- ・ 地震や風水害等の防災減災対策をハード・ソフト両面から強化するとともに、増え続ける特殊詐欺をはじめとした防犯対策を推進

04 県内小規模集落数の推移

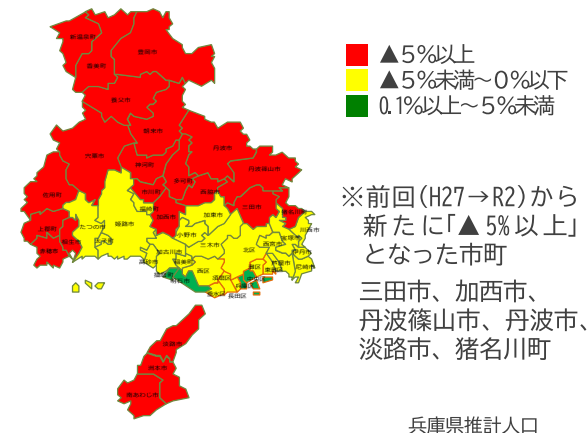
※世帯数50戸以下で高齢化率(65歳以上比率)40%以上の集落



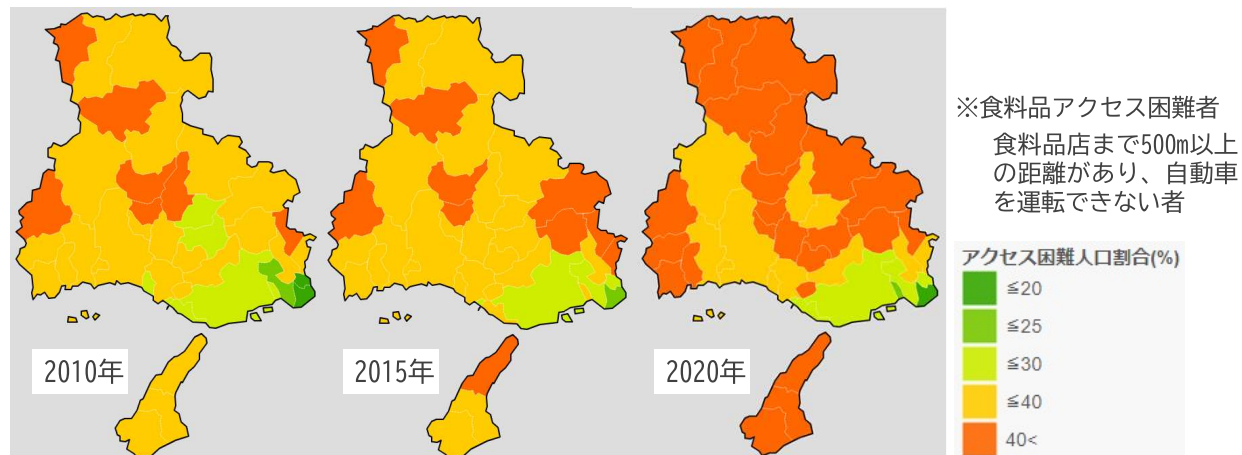
01 県内の出生数・合計特殊出生率



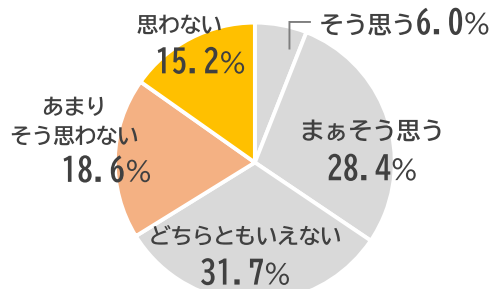
02 市町別人口減少率(H31→R6)



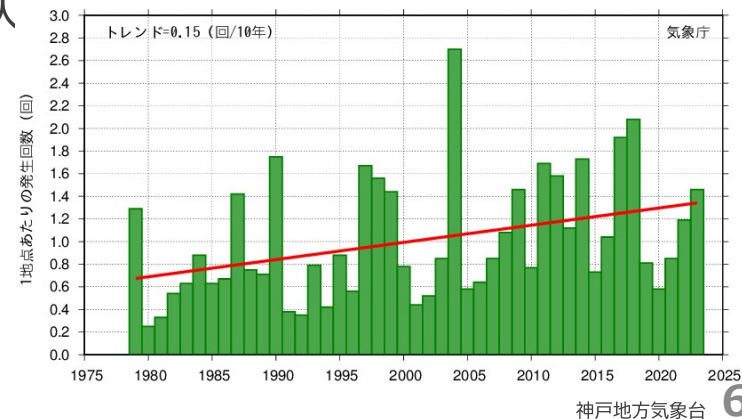
03 食料品アクセス困難者※割合の分布(75歳以上)



05 住んでいる地域で生活の不便さを補うサービスが増えていると思う人の割合



06 県内短時間豪雨(30mm/1hr)の発生回数



4 戦略推進プロジェクトの概要

※具体的な取組は予算編成過程で検討

① 若者・Z世代応援プロジェクト

次代を担う若者が、望む学びや、働き方、暮らし方ができ、存分に力を発揮できる社会の実現に向けた取組を推進

<主な取組>

- ・教育の経済的負担軽減や環境整備の促進、奨学金返済支援の充実
- ・県内の魅力ある仕事と若者のマッチング促進、若者による起業支援の充実
- ・子育て世帯向けの住環境整備の促進、子どもの遊び場の充実
- ・不妊治療支援の強化、保育・子育て支援の充実 など

<8つの方向性の主なもの>

1「多様な学びや働き方が叶う社会」 6「経済活力」 7「人・自然・文化を次代に」

② ひとりじゃないプロジェクト

深刻化する社会的な孤独・孤立を防ぐため、多様な主体と連携してつながりを広げる取組を推進

<主な取組>

- ・支援を必要とする若者の支援の強化(ヤングケアラー、課題を抱える妊産婦、貧困世帯等)
- ・小中学校における不登校対策の強化
- ・市町との連携によるひきこもり対策の強化
- ・社会で生きづらさを感じている人の孤立防止・居場所づくり など

<8つの方向性の主なもの>

2「居場所と役割」 3「寛容性」 8「安心して暮らし続けられる地域」

③ 外国人「第二のふるさと」プロジェクト

地域に暮らす外国人が兵庫を「第二のふるさと」として、安心して暮らし、働ける環境の整備に向けた取組を推進

<主な取組>

- ・外国人が安心して地域で暮らせる多文化共生の基盤づくり
- ・県内企業の外国人の受入促進、外国人が働きやすい環境整備
- ・外国人の子どもへの教育支援の充実
- ・多様な文化に触れる国際交流の推進 など

<8つの方向性の主なもの>

1「多様な学びや働き方が叶う社会」 3「寛容性」 4「ひとの動き」

④ 五国の“ナリワイ”育みプロジェクト

地場産業や新産業など兵庫に集積する多様な産業の競争力を強化し、地域の稼ぐ力と雇用力を高める取組を推進

<主な取組>

- ・国内外でブランド力を向上させる地場産業の新展開
- ・次世代産業拠点の形成促進、ものづくり産業におけるAI・ロボティクス等の技術革新の促進
- ・スタートアップの集中的支援、第二創業や事業承継の促進
- ・地域の多様な魅力を発信する観光の促進 など

<8つの方向性の主なもの>

5「地域の固有性」 7「人・自然・文化を次代に」 8「安心して暮らし続けられる地域」

⑤ ひょうご五国豊穡プロジェクト

農林水産業の生産性向上や高付加価値化に取り組むとともに、「農」を核とした活気ある農山漁村づくりを推進

<主な取組>

- ・地域資源を活かした持続可能で特色ある農山漁村づくり
- ・公民連携による県産農林水産物のブランド化、国内外の販路拡大
- ・兵庫の「食」を活かした交流の促進
- ・有機農業・環境創造型農業の更なる取組拡大、需要拡大
- ・農林水産業のスマート化、DX化の促進 など

<8つの方向性の主なもの>

5「地域の固有性」 6「経済活力」 7「人・自然・文化を次代に」

⑥ 五国のご縁(五縁)プロジェクト

地域で活躍するロールモデルを発掘し、交流を通じて優良事例を横展開するなど、地域や人をつなぐ縁を生み出し、地域創生の活動を広げる取組を推進

<主な取組>

- ・多様な主体の出会い・交流の場となるプラットフォームの構築
- ・市町と連携した総合的な移住・定住促進
- ・ひょうごフィールドパビリオンの万博後の展開
- ・スポーツを通じた地域活性化に向けた組織体制の整備や連携事業の充実 など

<8つの方向性の主なもの>

4「ひとの動き」 5「地域の固有性」 8「安心して暮らし続けられる地域」

5 人口の将来展望及び指標・評価

■人口の将来展望

- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計(中位)※による2070年の本県人口は340万人と予測 ※ R5地域別将来推計人口

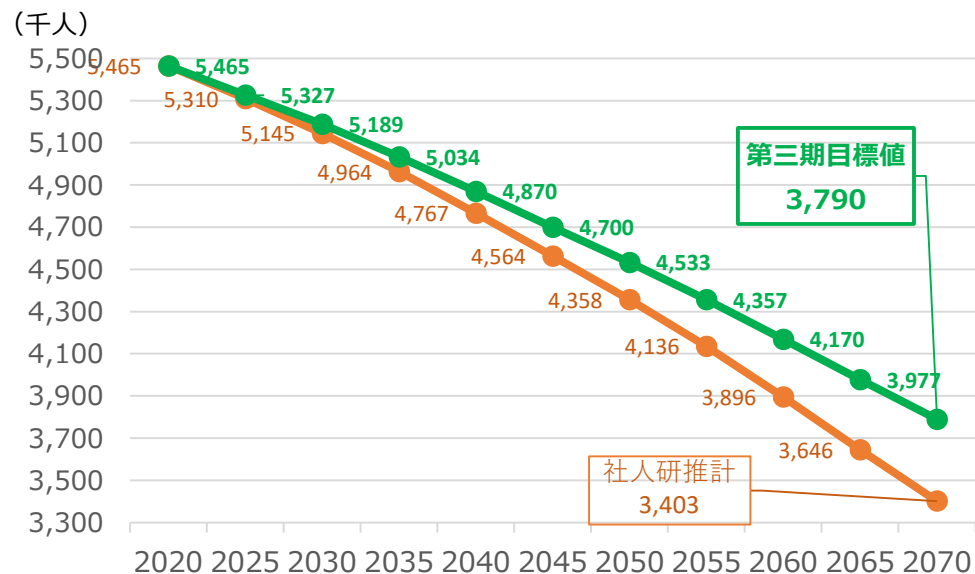
- 2070年における本県の人口目標は、戦略の総合的な推進により、社人研の推計を上回る**380万人**とする

※ 新型コロナウイルス感染拡大等による出生数の減少、東京一極集中の再加速による若者を中心とした県外流出を勘案し、現行戦略の目標(2060年450万人)を見直し

- 人口目標に基づく2029年の県人口は521.7万人と想定され、2024年から12.0万人減、社人研推計からは3.9万人の増

区分	2020年	現状(2024年)①	2029年②	増減(②-①)
県戦略	5,465千人	5,337千人	5,217千人	▲120千人
社人研	—	—	5,178千人	▲159千人

+39千人



■指標・評価

- 個別の取組を直接的に評価する統計データ等による**客観指標**に加え、統計データ等では測定が困難な「幸せの実感」や「心の豊かさ」等の**主観指標**を8つの方向性に応じて設定(主要指標を約40指標、その他約200指標設定)

<主な指標>

指標	現状	目標値(R11)	備考
合計特殊出生率	<客観> 1.29(R5)	1.27	ひょうご子ども・子育て未来プラン
県内の転入超過数(国際移動・外国人含む)	<客観> 1,291人(R5)	5,400人	第2期目標「日本人の社会減ゼロ」から変更
県内一人あたり県内総生産(GDP)の伸び	<客観> (R5) 実質 国107.7 県113.1 名目 国119.2 県121.9	国を上回る一人当たりGDP伸びを維持	継続採用
多様な働き方を選択しやすい社会だと思う人の割合	<主観> 22.7%(R6)	前年度を上回る	兵庫のゆたかさ指標
住んでいる地域に自慢したい宝があると思う人の割合	<主観> 40.9%(R6)	前年度を上回る	//
住んでいる地域には年齢・性別・障害の有無等に関わりなく暮らしやすい環境が整っていると思う人の割合	<主観> 36.0%(R6)	前年度を上回る	//
孤立しがちな人を生まないように気をかけあう社会であると感じる人の割合	<主観> 10.4%(R6)	前年度を上回る	//
住んでいる地域は治安が良く、安心して暮らせると思う人の割合	<主観> 68.0%(R6)	前年度を上回る	//
健康寿命(男性・女性)	<客観> 男性 80.41(R2) 女性 84.93(R2)	男性 81.53(R11) 女性 85.05(R11)	健康寿命延伸プラン(厚労省)から推計 第2期目標「平均寿命と健康寿命との差」から変更